

令和元年度 事業報告

1 会計監査

4月19日(金)午後3時~5時 都庁第一本庁舎39階打合せコーナーAを会場として、常任監事及び監事2名による各種帳簿類等の監査を実施(本会事務局長立合い)

2 理事会

5月9日(木)午後3時~5時 全商会館4階401会議室で開催

出席者21名

3 総会・講演会

6月27日(木)午後2時~4時50分 全商会館3階中会議室で開催

・総会 出席者44名(昨年度49名)

令和元年度 産業界会員功労者(永年会員)の表彰 株式会社鈴木塗装工務店

・講演会 出席者67名(昨年度49名)

演題: Society5.0時代の「未来の教室」

講師: 浅野 大介 氏(経済産業省 サービス政策課長(併)教育産業室長)

(総会・講演会の報告は会報第156号、会誌第57号に掲載)

4 委員会

(1) 企画推進委員会(第1回) 7月9日(火) 都庁第一本庁舎37階教育委員会室で開催

企画推進委員会(第2回) 10月18日(金) 都庁第二本庁舎15階15B会議室で開催

企画推進委員会(第3回) 1月17日(金) 工業教育会館5階第3会議室で開催

(2) 中学校技術・家庭科教育功労者選考委員会

9月17日(金) 都庁第一本庁舎37階教育委員会室で開催

(3) 作文選考委員会

全体会 5月17日(金) 都庁第一本庁舎36階36階会議室で開催

分科会(中学校の部) 10月21日(月) 都庁第二本庁舎15階15A会議室で開催

分科会(高等学校・専修学校の部) 10月25日(金) 都庁第二本庁舎15階15A会議室で開催

5 振興奨励事業

(1) 教育功労者表彰: 11月19日(火)午後3時から全商会館由会議室において、御下賜金記念産業教育功労者(22名)、中学校技術・家庭科教育功労者(5名)、専修学校産業教育功労者(2名)の表彰式を挙げた。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。

(2) 研究団体助成: 産業教育関係の教育団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、総合学科、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部を助成した。

(3) 作文コンクール: 中学生、高校生、高専生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は298点であった。その中から最優秀賞3名(中学校1名、高校1名、専修学校1名)、優秀賞7名(中学校3名、高校3名、専修学校1名)、佳作36名(中学校18名、高校18名、専修学校0名)計37名の入選者を選定した。

12月20日(金)東京商工会議所5階カンファレンスルームにおいて「作文コンクール表彰式」を行い、入選者及び「明日に生きる 第30号 ー作文コンクール入選作品集ー」の表紙デザイン作成者に賞状と賞品を授与した。また、入選者以外の応募者全員及び表紙デザイン応募者全員に記念品を贈呈した。入選作品は「明日に生きる 第30号 ー作文コンクール入選作品集ー」として令和2年3月1日に発行した。

(4) 優良卒業生選奨: 優良卒業生に対し、各学校の校長・学長を通じ、本会会長及び公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○東京都産業教育振興会会長表彰

中学校 880名 中等教育学校(前期課程) 10名

高等学校 215名 専修学校 56名

高専・短大 14名

計 1,175名

○公益財団法人産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校

計 112名

- (5) 後援事業：産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援名義の使用を承認している。本年度は11事業に対して後援名義の使用を承認した。

6 産学連携事業

東京商工会議所及びあきる野商工会と連携して都立高校と企業の連携を推進した。

7 産学交流事業

- (1) 産学懇談会（第1回）を7月5日（金）（午後2時～5時）に専門学校東京テクニカルカレッジを会場として行った。授業参観、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は、学園理事長・本部長、会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて47名であった。
- (2) 産学懇談会（第2回）を10月29日（火）（午後2時～5時）に日本工学院八王子専門学校を会場として行った。授業参観、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて49名であった。
- (3) 産学懇談会（第3回）を11月28日（木）（午後2時～5時）に東京都立蔵前工業高等学校を会場として行った。授業参観、施設見学の後、教育内容や産学連携等について話し合った。参加者は会場校校長・教職員、都産振の役員・企画推進委員、企業・学校会員、教育庁指導部・都立学校教育部職員等合わせて32名であった。

8 情報連絡事業

- (1) 会報「東京の産業と教育」を年2回、第156号を7月10日に、第157号を12月5日に発行し、全会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第57号を3月1日に発行した。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第30号を3月1日に発行した。
- (4) 全国産業教育振興連絡協議会総会及び公益財団法人産業教育振興中央会参与・学校代表委員会議が、5月23日（木）に国立オリンピック記念青少年総合センター・センター棟405で開催された。本会より会長、副会長、事務局長、学校代表委員が出席した。
- (5) 文部科学省・新潟県教育委員会・公益財団法人産業教育振興中央会他主催の第29回全国産業教育フェア新潟大会、第61回全国産業教育振興大会（新潟大会）が、10月26日（土）～10月27日（日）、新潟県新潟市内の会場を中心に開催され、本会から会長、事務局員及び会員校4校が参加した。
- (6) 東京都産業教育振興会のホームページを月1回更新した。
- (7) 公益財団法人産業教育振興中央会が実施する「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」に本会から1名が応募した。また、同会主催の「教員海外産業教育事情研修派遣」に本会から1名が参加した。
（本誌 P34～35）

9 会員増加運動の推進

年度末に産業界会員2、個人会員1が退会した。また、年間を通じて会員増加運動に取り組み、新たに学校会員4、企業会員1、個人会員1が入会した。

10 広報活動の推進

- (1) 東京都産業教育振興会のロゴマークを公募した。（令和元年7月1日～9月30日）
- (2) 高等学校、高等専門学校、専修学校合わせて159点の応募があった。
- (3) 最優秀賞1作品、優秀賞6作品、学校賞6校を表彰した。

11 「今後の東京の産業教育に関する報告書」の作成

「東京の産業教育の変革に向けた提言」（案）を作成した。